

## 第15回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈られる。軽金属学会功労賞選考委員会（委員長 山内重徳）の審査を経て平成25年2月27日（水）に開催された第14回理事会において慎重審議の結果、以下の1名の授賞を決定、第124回春期大会第1日目の5月18日（土）に富山大学において表彰式を挙行了た。

受賞者 村上 哲君 アイシン軽金属株式会社 専務取締役

### 受賞理由



村上 哲君は、昭和51年にアイシン軽金属株式会社に入社以来、30余年にわたりアルミニウム合金製品の研究開発および実用化に取り組んできた。中でもアルミニウム押出型材製バンパラインホースメントの開発においては、材料耐力300MPa以上の高強度7000系アルミニウム合金の開発や、アルミニウム押出型材を自動車のデザインに合せた2次加工技術の開発、さらに自動車の軽量化ニーズをいち早く捉え、7000系アルミニウム合金の高強度化に取り組んで、製品を軽量化することで差別化を図ってきた。押出加工や2次加工の技術を展開し、軽量化とともに部品点数を削減することで、これまでスチール製であったステアリングシャフト製品をアルミニウム合金製への置換、実用化に貢献している。最近では、アルミニウム合金を活用した製品設計技術により、ハイブリッド車向けバッテリーフレーム製品の開発、福祉車両向け車椅子積載スロープ製品の開発に貢献している。品質管理やTPMについても、同社におけるデミング賞実施賞中小企業賞、デミング賞実施賞受賞や、TPMワールドクラス賞受賞に大いに貢献し、これら自社製品の高性能化と高品質化を通して、次世代技術者の育成にも多大な貢献をしている。

同君はこれらの成果を自社に留めることなく、本学会北陸支部の活動を通して地域での若手技術者育成事業、さらに大学での客員教授を通して、学生に対するMOT関連の講義は勿論、近県の企業の若手技術者養成コースの講師を積極的に務め、次世代技術者養成を有言実行している。さらに平成17年からは北陸支部の幹事として北陸地区での事業を通して軽金属産業の振興に対して多大の尽力をし、本学会の春秋大会の運営、研究発表を地道に続ける等、軽金属学会としての活動にも貢献が多大である。

以上のように、同君の軽金属に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。